

## 平成31年(令和元年)度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	松井 太	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	------	-----	----

## 1 評価結果の分析

本年度行動計画14項目の自己評価は次のとおりである。学校経営目標達成に向けて概ね順調に進捗している。

A	B	C	D
2 (14.3%)	10 (66.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)

## 〈 1 課題発見・解決学習を推進し、主体的学びを深めるについて 〉

	A	B	C	D
○生徒の主体的な学び、深い学びを育成する授業を実践する。 ○「問う力」を育成し、授業評価で検証する。 ○カリキュラムマネジメント委員会を月2回開催し、目標とする資質・能力の育成について評価し、機能的なカリキュラムの運用について検討する。 ○ICT環境の整備を進め、効果的な活用による授業改善や業務改善を進める。 ・すべての教職員がICTを活用した授業を実践する。	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)

- ①成果 ○考查問題における思考力問題はすべての科目で定着した。  
 ○生徒に問いを立てさせる授業について、研究と実践を進めている。その結果、7月実施の授業評価アンケートでは、「問う力」の項目「授業や課題に取り組む中で、自分自身の「疑問」や「問い」を見いだすことができた。」の得点率は76.1%で、目標の80%を下回った。  
 ○1学年では、生徒の学習支援及び教員の業務改善をめざして、Classiを導入した。
- ②課題 ○新規の修学旅行を含めた新カリキュラムの実施及びその評価を進めるとともに、「めざす尾道北高の学び」の推進に向けた職員研修の実施を計画的に進める。

## 〈 2 教科指導の力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばすについて 〉

	A	B	C	D
○教科指導力を向上させる。 ・進研模試(7・1月)を指標とし、習熟度に応じた指導を行い、PDCAサイクルを機能させ、目標管理によって指導の改善を図る。 ・模擬試験結果分析を行い、その分析内容を授業、定期考查問題の作成等につなげる。(年3回) ・センター試験分析(5・2月)を行い、教科指導力の向上につなげる。 ・入試問題研究を行い、その成果を授業、入試問題セミナー、定期考查問題の作成につなげる。(7月以降) ○英語の外部試験GTEC等外部試験の受験に向けて、日常的に4技能育成の指導を計画的に行う。	0 (0%)	3 (75%)	1 (25%)	0 (0%)

- ①成果 ○模擬試験・スタディーサポートの分析を各教科で実施し、学年全体で課題と解決策を共有した。  
 ○新入試(共通テスト)の試行調査、平成31年センター試験の結果、難関大学二次試験、新しいタイプの入試問題について、全員が分析し、入試問題研究を行い、授業改善に資するよう進めている。  
 ○オンライン英会話、会話教材を取り入れ、継続して英語を話す、活用する場面を増やしている。
- ②課題 ○1年7月進研模試の平均点偏差値は56.5(前年55.4)である。偏差値50未満の人数が32名(前年47名)であった。  
 ○2年進研模試(7月)の国・数・英の平均点偏差値は54.9(前年58.7)であった。(目標値60.0/1年1月56.3)

〈 3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させるについて〉

	A	B	C	D
<p>○探究活動、キャリア学習を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」（1年次）「エクスプローラーセミナー」では、地域やグローバルに関する課題を発見する。</li> <li>・「産業社会と人間」（2年次）では、生徒の進路目標に応じて探究活動に即した訪問先を選定する。</li> <li>・「課題研究セミナー」（2年次）では、オープンセミナーや探究的・体験的な活動を実施し、具体的な研究テーマを設定させ、知の総合化を図る。3年次には探究活動をまとめた成果発表会を実施する。</li> </ul> <p>○外部団体が実施するセミナーやコンテストを集約し、各学年、分掌と協力して生徒に提示していく。</p> <p>○各個人の活動を振り返り、ポートフォリオ化を進める。</p>	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)

- ①成果 ○1年次は、広大出張講座や卒業生講演会を受講し、学問への探究心を高めた。2年次は、SDGsを基にテーマを設定し、レポートを作成した。3年次はグループで探究活動を行い、課題探究発表会で成果を公開した。
- 総務部（国際交流）、教育研究部、進路指導部が連携を図り、大学への公開講座参加（71名）、短期留学（16名）と昨年度同様多くの生徒の参加があった。各個人の活動については、行事ごとにアクトグラフという形式でまとめており、ポートフォリオ化を進めている。
- ②課題 ○2年次の海外修学旅行につなげるカリキュラム開発を行い、実施している。このことの評価と分析を行い、PDCA サイクルを回すことが今後の課題である。

〈 4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成するについて〉

	A	B	C	D
<p>○マナー指導を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通マナー、相手を思う気持ち、尊重する態度を身に付ける。</li> <li>・生徒会（交通委員会）が中心となり、前・後期各2回以上登校指導を行う。</li> <li>・生徒主体の活動を増やす。</li> <li>・PTA（健全育成委員会）と協力し、交通マナー向上を目的とした下校指導を行う。</li> </ul> <p>○全校生徒に対して、個人、団体で年に1回以上ボランティア参加を促す。</p> <p>○教育相談体制を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期または随時の特別支援教育会議・プロジェクト会議を開き、情報の共有や対応の協議をする。</li> <li>・スクールカウンセラー（SC）を効果的に活用（面談・研修会）し、生徒・保護者への支援を行う。</li> </ul> <p>○不登校予防を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査活用、面談実施から要支援生徒の早期発見・対応につなげる。</li> <li>・構成的グループエンカウンター（SGE）によるクラスづくりワークを設定し、新入生が早く高校生活やクラスに慣れるようにする。</li> </ul>	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)

- ①成果 ○前期遅刻者数は、0.11人/日（10人/92日）である。昨年度0.38人/日（32人/83日）と比較し、減少した。
- PTA健全育成委員会との下校指導、あいさつ運動を実施した。
- 特別支援教育会議を定期的に、プロジェクト会議を随時実施し、情報共有や対応協議をした。スクールカウンセラーの積極的活用のため、生徒や保護者の面談の他、全学年生徒や教職員への研修会を実施した。

〈 5 社会に信頼される学校づくりを推進するについて 〉

	A	B	C	D
○生徒募集活動を充実させる。 (説明会等) ・中学生の訪問受け入れ (5～6月, 体育祭) ・文化祭の一般公開 (6月) ・中学校主催の進路説明会 (6～10月) ・中学校への訪問 (6月～2月) ・オープンスクール (8月) ・本校主催の入試説明会 (10月) (資料等) ・広報用資料 (学校パンフレット等) の充実を図る。	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)

- ①成果 ○オープンスクール参加者数は中学生 324(382)名, 保護者等 218(230)名で, 計 542(612)名の参加で昨年より 11.4%減少したが, 新たに生徒による少人数での学校紹介座談会, PTA 役員と保護者対象座談会を行った。昨年同様暑さ対策も兼ねて, 体育館では開会行事のみ行い学校紹介は模擬授業教室 (生徒), 多目的教室 (保護者) に分けて実施した。各教室ではオープンスクール実行委員がパワーポイントや動画を活用してプレゼンテーションを行った。生徒, 保護者共にほぼ 100%の肯定的評価だった。

〈 6 働き方改革について 〉

	A	B	C	D
○時間外勤務時間を縮小する。	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)

- ①成果 ○ほとんどの教職員は, 定時退校日を意識してその日の業務や前日, 後日の業務を計画的に処理して, 18時までに退校がしっかりできている。
- ②課題 ○平成 30 年度と比較するとやや減少傾向にあるが, 目標達成には一層の時間外勤務の削減が必要である。定時退校日の退校については, 守られているが, それ以外の課業日の勤務時間終了後の時間外勤務と週休日及び休日の時間外勤務改善が必要である。

## 2 今後の改善方策

### 〈1 課題発見・解決学習を推進し、主体的学びを深めるについて〉

- (1) 11月の公開研究授業、互見授業等を活用し、「めざす尾道北高の学び」を反映した課題発見・解決の授業手法を研究する。
- (2) 生徒の深い学びにつながるICT活用に関する授業の開発及び実践事例の収集・蓄積について推進する。

### 〈2 教科指導力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばすについて〉

- (1) 模擬試験やスタディーサポートの結果分析を行い各成績層に応じた対策や個人面談による指導を行う。
- (2) 教科指導において、基礎的知識・技能の習得の場面とそれを活用する課題発見・解決学習の場面を、単元ごとに計画的に設ける。
- (3) 全教科で、言語能力の育成を図る指導を行うこととし、教科書を自分の力で読むことを、アウトプット、協働する機会を増やす。
- (4) 大学や実生活、社会で求められる課題解決の力を見通した設問を増やし、情報活用能力を高める。

### 〈3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させるについて〉

- (1) 校外・校内での自主的参加型の研修・活動を組織的に紹介・奨励し、評価することを継続して行う。
- (2) 生徒の活動実績について、Classi等を利用して、アクトグラフからJAPAN e-Portfolioへの接続を行う。

### 〈4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成するについて〉

- (1) 生徒会執行部を中心に、遅刻防止の取組を進める。あいさつ運度を定期的に行う。
- (2) 毎月の「ライフガイドルームだより」の発行、「こころとからだの相談日」について、生徒や保護者に周知する。引き続き、特別支援教育会議、プロジェクト会議等において気になる生徒に対して、早期に対応する。

### 〈5 社会に信頼される学校づくりを推進するについて〉

- (1) 本校主催の入試説明会や中学校2年生対象の出前授業などで中学生や保護者のニーズに応じた内容を提供するとともに、「めざす尾道北高の学び」や本校生徒の懸命に取り組んでいる姿を伝え、生徒募集にもつなげる。

### 〈6 働き方改革について〉

- (1) 時間外勤務の多い職員に対して、面談を実施し、業務の削減ができる部分を具体的に指示する。

## 3 学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策

学校関係者評価委員会の総合評価はAであった。課題を適切に分析していること、社会に必要とされる人材を育てるという意識を高く持ち、学校の魅力を高めたり、グローバル化に対応するプログラムを打ち出している点や、生徒が主体的に学ぶことができるように組織的に支援したり、個の学習を丁寧に指導したりする従来の取り組みを継続して行っていることなどについて評価を得た。

学校関係者評価がBであった項目については、引き続き改善を図っていく必要がある。

#### (1) 「目標、指標、計画等の設定の適切さ」について

- ・「生徒が学習意欲を高め、確かな学力を身に付けている。」について

在籍する生徒に対応した適切な指標の設定をするとともに、入試問題研究や模擬試験分析からの課題解決に向けて授業や補習、朝学習、総合演習などの内容を改善していく。また、模擬試験やスタディーサポートの結果分析を各成績層に応じた対策や個人面談による指導に反映させる。

#### (2) 「評価結果の分析の適切さ」について

進捗状況の報告や数値化が難しい指標に対する評価、及び教科、分掌による評価の差については、評価会議での検討を深め、学年での比較、年次での比較、推移について、系統的に整理していくことで、さらに適切な分析となるように改善していく。